

豊田工業大学 卒業式・修了式 学長告辞

本日、豊田工業大学から、学士、修士の学位を授与された皆さんに、心からお祝いを申し上げます。ご家族の皆さまも、おめでとうございます。本年度、学部を卒業された方々は 90 名、大学院修士課程を修了された方々は 50 名です。

皆さんは、本学で、体系的な理解を獲得する学修と独創的な成果を生み出す研究に、取り組んでこられました。課外での活動も蓄積しておられます。この間、困難な場面にも遭われたことと思います。皆さんはそれらを乗り越え、本日の晴れの式に臨んでおられます。これまでのご努力に敬意を表します。明日から、新たな環境で新たな挑戦が始まります。不安もありでしょう。しかし、大丈夫です。本学に入学なさった頃には出来なかったことを、これまでに幾つも成し遂げてきた経験は、新たな挑戦にも立ち向える力となっているからです。

本日、修士課程を修了になる多くの皆さんは、2020 年、学部 2 年の新学期から新型コロナウイルス感染症の影響を受けられました。第 1 波に遭遇し、急遽、全員が出校停止となり、遠隔形式で授業が再開されたのは 5 月中旬でした。6 月からは、研究員の皆さんと研究が主務の学生の皆さんには、順次、研究室に戻って頂けましたが、学修が主務の皆さんには初冬まで遠隔授業が続きました。学士課程を卒業になる皆さんの多くは、2021 年度の入学です。その 4 月からは対面授業が再開され、キャンパスに賑わいが戻りました。罹患対策を講じつつ進めた学修・研究活動は、皆さんに大きな負担をお掛けしましたが、無事にそれを完遂することができ、皆さんのご努力とご協力に感謝する次第です。

この間、2020 年夏には、キャンパスリニューアルが完了し、2021 年には開学 40 周年を迎えました。本学は、トヨタ自動車の社会貢献活動の一環として 1981 年に開学し、関連企業の皆様方からのご支援に支えられつつ、教育と研究において、自由で闊達な活動を展開して参りました。新キャンパスもご支援によるもので、教育と研究のファシリティが刷新されています。皆さんにも、この新たな環境を活用して頂くことができ、有難く、また嬉しく思っております。ご関連の皆様方からのご支援とご鞭撻に、感謝申し上げる次第です。

さて、本年度、本学は「新長期ビジョン」をスタートし、既存の強みに加え新たな挑戦も行い、「国際産業リーダーの育成」と「研究成果の社会還元に寄与する大学」を目指します。私は着任から 2 年半の間、本学の諸活動を把握させて頂き、小さな大学だから可能な特徴的な仕組みが幾つも稼働していることを実感しました。国立大学相当の学生対教員比、潤沢な研究費と研究設備、学外実習、海外研修、工房、クリーンルーム、国際プラザ、久方寮と国際寮等です。

これらを生かして本学はもっと元気になれると確信し、その実現のために学長就任時に掲げたのが、「学修は、知識を単に覚えることなく、真の理解に

至ることである」という「フィロソフィ」の浸透でした。当たり前聞こえるかもしれませんが、教育と研究の全ての場面でこの「フィロソフィ」を実現するのは、簡単ではありません。しかし、小さな工学系単科大学であるが故に、この「挑戦」には実現性がある、と考えました。

「理解する」学修とは、「帰結」に対応した「理由」を手繰り、「帰結と理由の関係」に納得することです。この「帰結と理由の関係を手繰る」態度は「論理的思考」ですので、これを講義、実験・実習、レポート・試験等で実行することで、「理解の束」が蓄積されるとともに、「論理的思考力」という「汎用力」が身に付きます。しかし、この「態度」には、努力と時間が必要です。

新ビジョンでは、「帰結と理由の関係を手繰る」態度があらゆる学修の場面で実施されるよう、教員の皆さんには「学修指導法」を工夫する努力をお願いします。現在、先生方の工夫も拡がりを見せ、講義内容を振り返る教員レポートには「論理的思考力育成への工夫」を記述する欄ができています。科目の内容によって「やり方」は異なりますが、同じ「フィロソフィ」の実現に向けた「やり方群」が拡充し、「豊田工大メソッド」として集約されてゆきます。

「論理的思考力」を起点に、様々な「汎用力」も涵養されます。思考を文章に纏める繰り返しは「論理的記述力」を育て、思考を言葉にする繰り返しは「論理的会話力」を育てます。これらを試す場面を学修中に設ける必要があります。これら「力」の体得を実感すると、「自信」も強まりましょう。「理解の束」と「論理的思考力」の増強は、「創造力」という「汎用力」の涵養へと繋がります。ある学問分野で体系的に「理解の束」を修めた方は、他分野をも「自己学修可能」な人になれます。これら「汎用力」は、研究活動でも育成されてゆきます。

社会人としての活動でも大きく役に立つこれらの「力」は、皆さんにも、勿論、身に付いています。それらを今後もさらに鍛錬しつつ活用されて、豊かな社会の実現に向けて大いにご活躍ください。

さて、世界では、今日も戦禍が続いています。そのような中、昨年秋には、日本原水爆被害者団体協議会の皆さんに「ノーベル平和賞」が授与されました。「核兵器は極めて非人道的な殺りく兵器であり人類と共存させてはならない、すみやかに廃絶しなければならない」との運動を展開してこられた団体です。

1月末に、広島へ行ってきました。路面電車を原爆ドームの近くで降り、ドームに赴き、広島平和記念公園内を歩き、広島平和記念資料館を訪ねて館内を巡りました。「戦争は絶対に始めてはいけない」と、強く思った次第です。呉市にも行き、呉市海事歴史科学館、通称「大和ミュージアム」を訪ねました。市が設置した施設で、その目的に「平和の大切さについて考える」との記述もあります。世界最大全長 263 メートルの戦艦大和の 1/10 模型が展示されています。「戦艦「大和」戦死者（沖縄特攻作戦）名簿」という大きな掲示がありました。

この作戦では、3,332 名が乗艦し、3,056 名が命を落としておられます。

名簿の隣に、臼淵 磐大尉の言葉がありました。吉田 満の戦記「戦艦大和ノ最期」に記されたものです。「進歩のない者は決して勝たない 負けて目覚める事が最上の道だ 日本は進歩という事を軽んじ過ぎた 私的な潔癖や徳義に拘って、本当の進歩を忘れてきた 敗れて目覚める、それ以外にどうして日本が救われるか 今目覚めずしていつ救われるか 俺達はその先導になるのだ 日本新生に先駆けて散る まさに本望じゃあないか」 大変に、辛く、悲しく、重たい言葉です。「戦争は絶対に始めてはいけない」、ここでも痛感しました。

人は難しい判断を迫られたとき、最終的には、自分の「心」に「答」を聴いてみるしかありません。「磨かれた心」なら、「戦争はしてはいけません」と答えてくれるでしょう。人と人との諍いにも、「磨かれた心」は「お止めなさい」と言ってくれるでしょう。でも、現実には、それほど簡単ではありません。それでも、皆さんには「心を磨く」ご努力を、生涯、続けて欲しいと願います。その際、本学での学修と研究の活動の中で培った「帰結と理由の関係を手繰る」態度が、きっと、お役に立ちます。私も、努力を続けます。

「柔らかい皮膚しかない理由（わけ）は、人が人の痛みを聴くためだ。」中島みゆきさんの歌詞の一節です。肌身に沁みてひとの痛みを感じることができる人になれば、幸せですね。

豊田工業大学の「山椒は小粒でもピリ辛い」存在感は、もっと高めてゆけると信じています。そして皆さんと、「進むなら、足跡のない方へ」行きましょう。

あらためまして、ご卒業・ご修了、誠におめでとうございます。

2025 年 3 月 19 日

豊田工業大学 学長 保立 和夫